世田谷村日記

石山修武

十一月十三日

十時半西高島平駅。森川と待ち合わせて松崎さんの土地を見る。高速道路に真近な独特の場所である。大体おおまかな構想は持って行ったが、土地を見ながら修正する。二〇分ほどで大体一案出来た。その後松崎さんと一緒に成増の美容院へ。打ち合わせ。一週間位で最初のプレゼンテーションというスケジュール。何だか柴又のフーテンの寅さんの世界に紛れ込んでしまった様な世界。さしづめ私なんかは例のオイちゃんの役で、寅は建築家の私。ダブルキャストだ。寅は言うわけね。何が大工の名人だってーの。困ってる人の家を建てれネェーで大工顔するんじゃネェーの。オイちゃんは頭を抱え込んでつぶやくの、バカだネェ、正真正銘本物のバカだよ、こいつは。バカがヘソ出して歩いているよ。バカ、もう。建築家ってーのは貧乏人の家の設計はやらネェーの、できるだけ金持ちの家をやって、それで建築家なの、貧乏人の家は大工にまかせておけばいいんだよ。オヤ言ってくれるじゃネェーの、柴又のダンゴ屋の親父が、貧乏人の家は大工に任せておきゃいいって、言ってくれましたねェ。コノ。オヤ、お前なぐったネ。ドタバタドタバタ。というような古典的単純な倫理的ドラマ。それが私をズーッと対面させている問題の中心なのだ。さしづめ貧乏人の家というのは現代ではハウス・メーカーの家の筈なのだが、そのハウス・メーカーの家が今は仲々に高額なのだ。要するに昔の大工棟梁の役割に相当する人が何処にも居なくなった。

昼食を成増駅前で喰べて研究室に戻る十四時前。